



■外務大臣より表彰される佐野氏



■人気テレビドラマ「医龍」の監修を務めた佐野氏



■Dr.バレットホイス氏と佐野氏

さの しゅんじ
佐野 俊二 Shunji Sano

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管外科 教授

Professor, Department of Cardiovascular Surgery,
Okayama University Graduate School of Medicine,
Dentistry and Pharmaceutical Sciences

1977年岡山大学医学部卒業後、岡山大学大学院医学研究科へ進学。
兵庫県立尼崎病院心臓血管外科副院長を務めた後、ニュージーランドや
オーストラリアにて世界的に有名な心臓外科医の下で研修を重ねる。胸部
外科・循環器に関する多数の学会で指導的役割を果たしている。海外で
の技術指導にも力を注ぎ、世界中から研修の依頼が絶えない。

推薦者 逢沢 一郎 衆議院議員

佐野俊二氏は、これまで数々の難手術を成功させてきた、世界でもトップクラスの小児心臓外科医である。他では手術が難しいと言われ、佐野氏に最後の望みを託す子どもも少なくない。

佐野氏は多忙な手術のスケジュールの合間を縫って、2002年よりインドネシア、フィリピン、中国、ベトナムなど、主として東南アジア諸国の主要施設に毎年数回訪れては手術指導を行っている。小児心臓手術という特殊性ゆえ、小児心臓麻酔医、小児心臓外科医、人工心肺技師、手術場看護師、ICU看護師など治療に携わる5〜6名のチームを引き連れての技術指導は、驚くことに全てボランティアで行われている。

なぜこのような海外での技術指導を無償で行うのか。その理由は「病気の子どもたちに国内外の差はない」からだ。佐野氏は語る。日本では心臓病のほとんどの子どもたちは治療を受けら

れるが、東南アジアの多くの国では90%以上の子どもたちが治療さえ満足に受けられない。インドネシアでは毎年2万人以上の心臓病の子どものみが産まれるが、治療を受けられるのはわずか数百人の子どものみである。

その理由の一つは、治療ができる専門医師・看護師の不在、また医師がいても満足な専門教育を受けていないことが原因だ。そのため、佐野氏は病気の子どもたちを治療して助けることの喜び、チーム医療の大切さ、そして将来は自国の子どもたちを自分たちの手で治療し、助けることの大切さを教えている。活動の成果は台湾、タイより小児心臓外科医が研修のため来日。2010年、岡山大学病院とベトナムのハノイ循環器センターは心臓外科手術など高度医療の共同研究や情報交換、人的交流など協力を進めることで合意し、友好協定に調印した。

2011年にはベトナム政府の依頼でハノイ循環器センターより医師看護師など総勢6名の派遣が決定した。

もう一つの理由は、佐野氏自身がニュージーランドやオーストラリアで世界的な心臓外科医の権威の下で研修をした経験が基盤になっている。その時に育ててもらった恩返しは、アジアで若い医師を育てることであると佐野氏は公言する。

この他にも、岡山大学病院では佐野氏を中心に、海外からの経済的に貧しい患者を無料で治療している。このような医療を通じての人道支援、そして国際貢献は国内外から高く評価されている。もともと、本人は海外での技術指導は「ボランティアではなく、自分の使命であり興味です」と淡々と活動を続けていくが、筋に自ら選んだ道を進む姿に、今後ますますの活躍が期待されている。

海外での技術指導は

「ボランティアではなく、自分の使命であり興味」